

1 総 括

札幌市衛生研究所では、市の保健衛生及び環境保全行政の科学的かつ技術的中核機関としての役割を担い、主に保健所や環境局、医療機関等から依頼された検体の試験検査を行っている。併せて、積極的に調査研究を実施し多くの成果を挙げ、国内の関連学会等で発表を行っている。また、施設見学会の開催等を通じて、市民に身近な衛生研究所を目指しているほか、保健環境情報の収集・解析・提供業務の充実・強化を図っている。

さらに、人を対象とする医学研究については、倫理的・科学的観点から適正な推進を図るため、倫理審査委員会を設置し、研究デザインについて承認を得たうえで疫学研究等を行っている。

微生物部門では、感染症や食中毒等の健康危機に関する検査として腸管出血性大腸菌、赤痢菌や食中毒菌等の細菌検査、新型コロナウイルス、インフルエンザ、麻しんやノロウイルス等のウイルス検査、HIV抗体等の血清検査のほか、食品の安全性確保のための規格検査等を行っている。また、結核菌の遺伝子型やインフルエンザの薬剤耐性、さらに、検査技術の改良等に関する調査研究、厚生労働科学研究による健康危機管理に関する研究にも参加している。感染症発生動向調査事業としては、病原体ウイルス検査を行うとともに、地方感染症情報センターとして、市内で流行している感染症の発生動向を毎週ホームページに掲載するなど、市民、医療機関等への情報提供を行っている。

母子スクリーニング検査部門では、生後4日から6日の児を対象とした新生児マススクリーニングを実施するとともに、胆道閉鎖症等の早期発見に有用な便色カードの使用方法等について、普及啓発を行っている。これらの事業により、これまでに数多くの患者を発見し、早期治療に結びつけるなど大きな成果を上げている。また、新生児マススクリーニングにより発見された患者については、マススクリーニング関連疾患依頼検査システムにより、治療効果の把握や診断補助のためのフォロー検査を行っている。なお、2025年度より新生児マススクリーニングの検査業務を外部委託化し、それに伴いマススクリーニング関連疾患依頼検査事業は終了した。

食品化学部門では、乳・乳製品、ミネラルウォーター等の規格検査をはじめ、食品添加物、残留農薬、残留動物用医薬品、遺伝子組換え食品及び食物アレルギーの検査を行っている。さらに食品以外では、家庭用品中に含まれる有害物質の規制基準に基づく検査を実施している。また、日頃より検査技術の改良等に関する調査研究を行っているほか、国立医薬品食品衛生研究所の「食品添加物一日摂取量調査等」にも参加している。

大気環境部門では、大気環境の汚染状況の把握や汚染原因の解明等のため、有害大気汚染物質検査を継続して行っているほか、2013年度から微小粒子状物質（PM_{2.5}）の成分分析、2015年度からは大気浮遊じん等を対象に放射性物質検査を行っている。また、地球環境問題への取組として、酸性雨（雪）の検査を実施している。さらに、環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）を受託し、環境調査等にも取り組んでいる。

水質環境部門では、河川水、事業場排水、地下水等の水質検査、ゴルフ場使用農薬、土壌汚染に係る検査等を行い、環境保全行政推進の一端を担っている。また、日頃より検査法の改良・開発を行うとともに、環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）等を受託し、未規制化学物質の環境調査等に取り組んでいる。

2 微生物係

微生物係は、保健所等行政機関からの依頼により、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）、食品衛生法等に基づき、赤痢、腸管出血性大腸菌等の腸管系病原菌、食中毒菌及び食品の収去検査における細菌等の検査並びに新型コロナウイルス、HIV、インフルエンザウイルス、ノロウイルス等のウイルス検査を行っている。また、国の厚生労働科学研究に参加するなど、微生物検査に係わる調査研究も行っている。

さらに、感染症発生動向調査事業としてウイルス検査を実施し、流行株の検出状況や市内の感染症の発生動向を週毎に当所ホームページに掲載し、市民、医療機関等へ情報提供するなど地方感染症情報センターとしての役割を担っている。

2024 年度における主な業務内容は次のとおりである。また、微生物検査の実施状況は表 1 のとおりである。

【業務内容】

(1) 細菌検査

ア 防疫検査

細菌の防疫検査は、腸管出血性大腸菌等 3 類感染症発生届出等に伴う患者及び接触者の検査として 117 検体、薬剤耐性菌の検査として 64 検体の依頼があった。

イ 食中毒菌検査

食中毒様症状を呈した患者の便及び関連施設の従業員の便、菌株、食品等 235 検体、1,873 項目の検査依頼があった。

ウ 食品の収去検査

本市の収去計画に基づき、細菌検査 99 検体、306 項目の検査依頼があった。

収去検査の実施状況については表 2 のとおりであった。

エ 結核菌検査（VNTR）

本市で登録された結核患者由来の結核菌 55 検体の検査依頼があった。

オ 梅毒検査

各区保健センターにおける HIV 検査の受検者のうち梅毒検査受検希望者 607 人の検査依頼があった。

カ その他細菌検査

浴槽水等のレジオネラ属菌検査の依頼が 36 検体あった。

キ 一般依頼検査

一般からの検査依頼はなかった。

(2) ウイルス検査

ア 防疫検査

ウイルスの防疫検査は、麻しん、風しん、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 等が疑われた患者からの 95 検体の検査依頼があった。新型コロナウイルス検査については、ゲノム解析について 376 検体の検査依頼があった。

イ 食中毒検査

食中毒様症状を呈した患者の便等 242 検体、244 項目の検査依頼があった。

ウ HIV 検査

各区保健センターに相談に訪れ、HIV 検査を希望した者 628 人の検査依頼があった。検査は、札幌

市平日エイズ相談・検査実施要領に基づき、IC 法による一次検査（スクリーニング）を行った。

(3) 感染症発生動向調査事業（表 3）

感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、市内 14 箇所の医療機関（小児科 9、内科 4、眼科 1 施設）から搬入された 280 検体について病原ウイルスの検査を行った。

検査対象疾病はインフルエンザ、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病、流行性角結膜炎及び急性出血性結膜炎の 6 疾病とし、患者から採取した検体の検査を行った。

(4) 調査研究

感染症・病原体に関する調査研究

ア 大腸菌の基質拡張型 β -ラクタマーゼ遺伝子保有率調査

イ 札幌市におけるノロウイルスのポリメラーゼ領域による遺伝子型解析

ウ 定点報告データからみる札幌市における新型コロナウイルス感染症の流行状況

表 1 微生物検査実施状況

2024年度

区 分			検 体 数	項 目 数
細菌	防疫検査	腸管出血性大腸菌	113	113
		薬剤耐性菌	64	64
		その他	4	4
	食中毒検査		235	1,873
	収去検査		99	306
	結核菌検査（VNTR）		55	55
	梅毒検査		607	607
	その他細菌検査（レジオネラ属菌検査）		36	36
	一般依頼		0	0
	合 計		1,213	3,058
ウイルス	防疫検査	麻しん	32	32
		風しん	35	35
		重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	8	8
		エンテロウイルス	19	19
		新型コロナウイルスゲノム解析	376	376
		A型肝炎ウイルス	1	1
	食中毒検査		242	244
	HIV検査		628	1,256
	一般依頼		0	0
	感染症発生 動向調査	小児科（分離）	147	147
		内 科（分離）	0	0
		眼 科（分離）	133	133
	合 計		1,621	2,251
総 数		2,834	5,309	

表 2 収去検査実施内訳

2024年度

食 品 の 分 類		微 生 物 検 査								
		総 数		細 菌 検 査						
		検 査 検 体 数	検 査 項 目 数	細 菌 数	大 腸 菌 群	黄色 ブドウ 球菌	サル モネラ 属菌	腸 炎 ビ ブ リ オ (最 確 数 を 含 む)	腸 管 出 血 性 大 腸 菌	そ の 他
総 数		99	306	56	72	29	29	11	48	61
内 訳	魚介類	8	24	8	5	－	－	8	－	3
	魚介類加工品	8	8	－	8	－	－	－	－	－
	肉卵類・その加工品	11	45	－	－	11	11	－	11	12
	冷凍食品	7	14	7	5	－	－	－	－	2
	穀類・その加工品	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	野菜・果物・豆類・ その加工品	6	13	1	1	－	－	－	6	5
	菓子類	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	清涼飲料水	2	6	－	2	－	－	－	－	4
	氷雪	1	3	1	1	－	－	－	1	－
	缶詰・びん詰食品	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	乳及び乳製品・ その加工品	32	72	15	28	－	－	－	12	17
	アイスクリーム類・氷菓	6	12	6	6	－	－	－	－	－
その他の食品	18	109	18	16	18	18	3	18	18	

表3 感染症発生動向調査病原体検査状況(1)

2024年度

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
小児科検体数		25	25	14	19	6	8	7	11	11	4	12	5	147
検 出 病 原 体	インフルエンザ [®] AH1pdm09型	1	-	1	-	1	1	1	3	1	1	1	-	11
	インフルエンザ [®] AH3型	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	4
	インフルエンザ [®] B型 (ヒ [®] クトリア)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	3
	アデ [®] ノウイルス1型	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	アデ [®] ノウイルス3型	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	アデ [®] ノウイルス108型&イン フルエンザ [®] AH1pdm09型	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	コクサッキーウイルスA5型	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2
	コクサッキーウイルスA6型	-	1	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	11
	コクサッキーウイルスA10型	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	コクサッキーウイルスA16型	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	エンテロウイルス 71 型	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	EB ウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	ヒトル [®] スウイルス 7 型	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	パ [®] ラインフルエンザ [®] 1 型	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	パ [®] ラインフルエンザ [®] 3 型	1	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	8
	パ [®] ラインフルエンザ [®] 1 型& ライノウイルス	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	パ [®] ラインフルエンザ [®] 3 型& ライノウイルス	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	パ [®] ラインフルエンザ [®] 4 型& ライノウイルス	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	ライノウイルス	3	3	2	2	1	-	2	-	-	-	1	1	15
	RS ウイルス	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4
	RS ウイルス&ライノウイルス	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	ヒトメタニューモウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	SARS-CoV-2	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	パ [®] ルボ [®] ウイルス B19& ライノウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2
	ウイルス不検出	11	8	6	7	3	4	3	5	7	2	6	2	64

表 3 感染症発生動向調査病原体検査状況(2)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
眼科検体数		0	14	9	11	10	4	14	14	19	17	13	8	133
検 出 病 原 体	アデノウイルス 8 型	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2
	アデノウイルス 37 型	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	1	-	5
	アデノウイルス 115 型	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	単純ヘルペスウイルス 1 型	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
	ウイルス不検出	-	13	9	9	8	4	13	14	18	15	12	8	123
検体総数		25	39	23	30	16	12	21	25	30	21	25	13	280

3 母子スクリーニング検査係

母子スクリーニング検査係の試験検査業務は、新生児を対象とした 1)新生児マススクリーニング及び新生児マススクリーニング検査で要精密検査となった児などを対象にフォロー検査等を行う、2)マススクリーニング関連疾患依頼検査であり、疾病の早期発見と早期治療による心身障害の発生防止対策の一環として、予防医学の分野で大きな成果をあげている。また、胆道閉鎖症等の早期発見に寄与するため、母子健康手帳内の便色カード使用方法等について啓発を行っている。

調査研究業務は、これらのマススクリーニングシステムの改善と新たな対象疾患の検討を主なテーマとして行っている。

なお、2025年度より新生児マススクリーニングの検査業務を外部委託化し、それに伴いマススクリーニング関連疾患依頼検査事業は終了した。

【業務内容】

(1) 新生児マススクリーニング（表 1）

札幌市内で出生した全新生児を対象として検査を実施している。検体は乾燥ろ紙血液であり、産婦人科医療機関で生後 4 日から 6 日に採血が行われ、衛生研究所に郵送される。2024 年度の初回検査数は、11,082 人と届出出生数 9,486 人の 116.8%であり、1977 年の検査開始以来、常に届出出生数を上まわっている。これは、周辺市町村の居住者が札幌市内の医療機関で出産する機会が多いためである。

ア 先天性代謝異常症

11,082 人中 46 例が要再検査、6 例（うち 1 例は複数項目に重複）が要精密検査となり、この中から 2 例が患者として診断され、早期に治療が開始された。

イ 先天性甲状腺機能低下症

11,082 人中 165 例が要再検査、30 例が要精密検査となり、この中から 22 例が患者として診断され、早期に治療が開始された。

ウ 先天性副腎過形成症

11,082 人中 1 例が要再検査、2 例が要精密検査となり、この中から 2 例が患者として診断され、早期に治療が開始された。

(2) マススクリーニング関連疾患依頼検査（表 2）

新生児マススクリーニング検査で要精密検査となった児及び臨床所見等からマススクリーニング関連疾患が疑われる児を対象に、札幌市内の医療機関からの依頼に基づき、疾患の確定や除外のための各種検査や、患者のフォロー検査を行っている。

乾燥ろ紙血液検体数は、代謝異常症検査用として 459 件、内分泌疾患検査用として 139 件であり、また、尿検体は、代謝異常症検査用として 183 件であった。

表1 新生児マススクリーニング実施状況

2024年度

区 分		初 回 検 査 数	要 再 検 査 数	要 精 密 検 査 数	患 者 数
先天性代謝異常症	アミノ酸代謝異常症	11,082	8	5	1
	有機酸代謝異常症	11,082	15	2	1
	脂肪酸代謝異常症	11,082	23	0	0
	ガラクトース血症	11,082	2	0	0
先天性甲状腺機能低下症		11,082	165	30	22
先天性副腎過形成症		11,082	1	2	2
総 数		—	207	38	26

要再検査数と要精密検査数の総数で、複数項目で対象となった重複例については併せて1と数えた

表2 マススクリーニング関連疾患依頼検査実施状況

2024年度

区 分		件 数
総 数		781
血液	先天性代謝異常症関連検査	459
	新生児内分泌疾患関連検査	139
尿	先天性代謝異常症関連検査	183

4 食品化学係

食品化学係では、市民の食生活の安全性を確保するため、保健所からの依頼を受け、食品の理化学検査を行っている。その内容は、食品衛生法に基づく乳・乳製品及び清涼飲料水等の規格検査のほか、食品添加物、残留農薬及び残留動物用医薬品等の検査、遺伝子組換え食品の検査及び特定原材料検査（アレルギー検査）である。

食品関係以外では、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、肌着等の繊維製品及び家庭用化学製品（家庭用洗剤、かつら等接着剤等）の検査を実施している。

上記検査のほか、食品検査に関する調査研究を実施している。また、国立医薬品食品衛生研究所の委託を受け、「食品添加物一日摂取量調査等」に参加しており、2024 年度はアセスルファムカリウムの調査を担当した。

【業務内容】

(1) 食品検査

2024 年度の食品検査総数は、345 検体、16,559 項目で、保健所からの依頼による収去検査及び食中毒関連の検査（ヒスタミン）であった（表 1）。なお、検査項目は表 2 に示すとおりであった。

収去検査について、検体の産地別割合は国産品 220 検体（67.1%）、輸入品 108 検体（32.9%）であり、国産品の依頼が約 3 分の 2 を占めた（表 3）。検査の内容としては、添加物系検査が 236 検体、1,935 項目、残留農薬検査が 92 検体、14,607 項目であった（表 4）。なお、残留農薬検査では、検体数、検査項目数とも、国産品が約 7 割を占めた（表 5）。

ア 規格検査

収去検査として、乳及び乳製品等 27 検体、延べ 62 項目の規格検査を実施した（表 2）。

また、ミネラルウォーター 2 検体について、シアン、フッ素等、延べ 34 項目の規格検査等を実施した。これは、2016 年度より実施しているものである（表 2）。

イ 食品添加物検査

収去検査として、ソルビン酸、安息香酸、その他甘味料等 124 検体、延べ 966 項目の検査を実施した（表 2）。

ウ 残留農薬検査及び残留動物用医薬品検査

残留農薬検査は、野菜・果実等の収去検査として 92 検体、延べ 14,607 項目の検査を実施した（表 5）。また、食肉、魚介類及び乳等について、残留動物用医薬品検査として合成抗菌剤等 36 検体、延べ 783 項目について検査を実施した（表 2）。

エ 遺伝子組換え食品検査

米加工品及びトウモロコシ等について、遺伝子組換え食品の定性検査として 13 検体、延べ 21 項目の検査を実施した（表 2）。

オ 特定原材料検査（アレルギー検査）

菓子類及びめん類等について、卵、乳、小麦及び落花生等のアレルギー検査として 23 検体、延べ 47 項目を実施した（表 2）。

カ 放射性物質検査

福島第一原発事故を受けて、保健所からの収去検査として、福島県及び近隣県の穀物加工品 2 検体について放射性物質検査（セシウム 134 及び 137、セシウム 134、セシウム 137）延べ 6 項目を実施した（表 2）。

キ その他

魚介類加工品等 22 検体について、不揮発性腐敗アミン(ヒスタミン) 定量試験延べ 22 項目を実施した。

また、ナッツ類 6 検体について、総アフラトキシン定量試験延べ 6 項目を実施した(表 2)。

(2) 家庭用品検査

保健所からの依頼により、乳幼児の肌着等の繊維製品及び家庭用化学製品の試買品について、ホルムアルデヒド、特定芳香族アミン、容器試験等 99 検体、延べ 203 項目の検査を実施した(表 6)。

(3) 調査研究

食品検査に関する調査研究を行った。

ア 食品添加物分析法の妥当性評価(令和 5 年度分析法改正分)

イ 食品添加物一日摂取量調査

ウ 特定原材料(くるみ)の食物アレルギー検査導入に向けた検討

表 1 食品理化学検査実施状況

2024 年度

依頼別 食品分類	総 数		保健所				他の行政機関	
			収去		その他			
	検体数 *1	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
牛乳・成分調整牛乳・加工乳等	12	45	12	45	－	－	－	－
魚介類	19	226	8	215	11	11	－	－
冷凍食品	4	302	4	302	－	－	－	－
魚介類加工品	45	94	40	89	5	5	－	－
肉・卵類及びその加工品	33	577	33	577	－	－	－	－
乳製品	14	17	14	17	－	－	－	－
乳類加工品	1	1	1	1	－	－	－	－
アイスクリーム類・氷菓	6	52	6	52	－	－	－	－
穀類及びその加工品	22	305	22	305	－	－	－	－
野菜・果物・豆類・その加工品	111	14,110	111	14,110	－	－	－	－
菓子類	53	705	53	705	－	－	－	－
清涼飲料水	2	34	2	34	－	－	－	－
酒精飲料	9	63	9	63	－	－	－	－
缶詰・瓶詰食品	2	6	2	6	－	－	－	－
その他の食品	12	22	11	21	1	1	－	－
計	345	16,559	328	16,542	17	17	－	－

*1 総数の検体数は、野菜・果物・豆類・その加工品 111 検体のうち 4 検体(全て輸入品)を共用として計上した延べ数である。

表 2 食品化学項目別検査件数(1)

2024 年度

区 分		総 数	収 去	その他	他の行政機関	一般
総 数		16,559	16,542	17	0	0
乳及び乳製品規格（27検体）		62	62	0	0	0
	比重	9	9	-	-	-
	酸度	12	12	-	-	-
	乳脂肪分	14	14	-	-	-
	乳固形分	2	2	-	-	-
	無脂乳固形分	22	22	-	-	-
	水分	3	3	-	-	-
清涼飲料水規格（2検体）		34	34	0	0	0
	一般規格	4	4	-	-	-
	混濁・沈殿物又は異物	4	4	-	-	-
	スズ	0	0	-	-	-
個別規格（ミネラルウォーター）		30	30	-	-	-
	金属	22	22	-	-	-
	シアン、フッ素、硝酸・亜硝酸性窒素	8	8	-	-	-
個別規格（ミネラルウォーター以外の清涼飲料水）		0	0	-	-	-
	ヒ素、鉛	0	0	-	-	-
	パツリン	0	0	-	-	-
食品添加物総数（124検体）		966	966	0	0	0
	ソルビン酸	93	93	-	-	-
	安息香酸	47	47	-	-	-
	合成着色料（指定外含）	627	627	-	-	-
	亜硝酸根	20	20	-	-	-
	亜硫酸（二酸化硫黄）	24	24	-	-	-
	サッカリンナトリウム	45	45	-	-	-
	アセスルファムカリウム	9	9	-	-	-
	サイクラミン酸	32	32	-	-	-
	チアベンダゾール	4	4	-	-	-
	オルトフェニルフェノール	2	2	-	-	-
	ジフェニル	2	2	-	-	-
	イマザリル	3	3	-	-	-
	ポリソルベート	26	26	-	-	-
	ナタマイシン	2	2	-	-	-
	T B H Q	30	30	-	-	-
残留農薬総数（92検体）		14,607	14,607	0	0	0
	有機塩素系	3,665	3,665	-	-	-
	有機リン系	4,310	4,310	-	-	-
	有機窒素系	4,700	4,700	-	-	-
	ピレスロイド系	946	946	-	-	-
	尿素系	70	70	-	-	-
	N-メチルカーバメート系	45	45	-	-	-
	2,4-D	1	1	-	-	-
	アセフェート	2	2	-	-	-
	臭素	0	0	-	-	-
	メタミドホス	2	2	-	-	-
	その他	866	866	-	-	-

※各検査総数の（ ）内検体数は、延べ数で計上

表 2 食品化学項目別検査件数(2)

2024 年度

区 分		総 数	収 去	その他	他の行政機関	一般
残留動物用医薬品総数 (36検体)		783	783	0	0	0
合成抗菌剤		598	598	-	-	-
	エトバペート	29	29	-	-	-
	エンロフロキサシン	4	4	-	-	-
	オキシリニック酸	4	4	-	-	-
	オルメトプリム	29	29	-	-	-
	クロビドール	29	29	-	-	-
	クロラムフェニコール	4	4	-	-	-
	スルファキノキサリン	29	29	-	-	-
	スルファクロルピリダジン	29	29	-	-	-
	スルファジミジン	29	29	-	-	-
	スルファジメトキシシ	29	29	-	-	-
	スルファチアゾール	29	29	-	-	-
	スルファドキシシ	29	29	-	-	-
	スルファニトラン	29	29	-	-	-
	スルファピリジン	29	29	-	-	-
	スルファベンズアミド	29	29	-	-	-
	スルファメトキサゾール	29	29	-	-	-
	スルファメトキシピリダジン	29	29	-	-	-
	スルファメラジン	29	29	-	-	-
	スルファモノメトキシシ	29	29	-	-	-
	スルフィソゾール	29	29	-	-	-
	チアンフェニコール	29	29	-	-	-
	トリメトプリム	29	29	-	-	-
	ピリメタミン	17	17	-	-	-
	フラゾリドン	11	11	-	-	-
	フラルタドン	7	7	-	-	-
内寄生虫用剤		113	113	-	-	-
	アルベンダゾール	29	29	-	-	-
	イベルメクチン	1	1	-	-	-
	エブリーノメクチン	1	1	-	-	-
	5-ヒドロキシチアベンダゾール	29	29	-	-	-
	チアベンダゾール	29	29	-	-	-
	ピランテル	0	0	-	-	-
	モキシデクチン	1	1	-	-	-
	レバミゾール	23	23	-	-	-
ホルモン剤		9	9	-	-	-
	ゼラノール	3	3	-	-	-
	ラクトパミン	6	6	-	-	-
抗生物質		63	63	-	-	-
	エリスロマイシン	11	11	-	-	-
	オキシテトラサイクリン	8	8	-	-	-
	オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、テトラサイクリン	15	15	-	-	-
	ミロサマイシン	29	29	-	-	-

※各検査総数の () 内検体数は、延べ数で計上

表 2 食品化学項目別検査件数(3)

2024 年度

区 分	総 数	収 去	その他	他の行政機関	一般
遺伝子組換え食品総数 (13検体)	21	21	0	0	0
定性	21	21	-	-	-
定量	0	0	-	-	-
食物アレルギー (23検体)	47	47	0	0	0
特定原材料	46	46	-	-	-
特定原材料 (定性)	1	1	-	-	-
放射性物質 (2検体)	6	6	0	0	0
セシウム134・セシウム137	2	2	-	-	-
セシウム134	2	2	-	-	-
セシウム137	2	2	-	-	-
ヨウ素131	0	0	-	-	-
その他 (32検体)	33	16	17	0	0
pH	1	1	-	-	-
水分活性	1	1	-	-	-
ヒスタミン	22	5	17	-	-
メタノール	3	3	-	-	-
アフラトキシン	6	6	-	-	-

※各検査総数の () 内検体数は、延べ数で計上

表 3 収去検査実施内訳 (国産・輸入)

2024 年度

食品分類	依 頼 別	総 数		国産品		輸入品	
		検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
牛乳		5	22	5	22	-	-
成分調整牛乳		3	7	3	7	-	-
低脂肪牛乳		4	16	4	16	-	-
無脂肪牛乳		0	0	-	-	-	-
乳製品		14	17	12	15	2	2
乳類加工品		1	1	1	1	-	-
魚介類		8	215	4	103	4	112
冷凍食品		4	302	2	4	2	298
魚介類加工品		40	89	30	64	10	25
肉・卵類及びその加工品		33	577	19	235	14	342
アイスクリーム類・氷菓		6	52	6	52	-	-
穀類及びその加工品		22	305	18	297	4	8
野菜・果物・豆類・その加工品		111	14,110	76	10,308	35	3,802
菓子類		53	705	27	185	26	520
清涼飲料水		2	34	1	17	1	17
酒精飲料		9	63	3	6	6	57
缶詰・瓶詰食品		2	6	2	6	-	-
その他の食品		11	21	7	8	4	13
計		328	16,542	220	11,346	108	5,196

表 4 収去検査実施内訳（添加物・農薬）

2024 年度

食品分類	依頼別	総 数		添加物及びその他		残留農薬	
		検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
牛乳		5	22	5	22	-	-
成分調整牛乳		3	7	3	7	-	-
低脂肪牛乳		4	16	4	16	-	-
無脂肪牛乳		0	0	-	-	-	-
乳製品		14	17	14	17	-	-
乳類加工品		1	1	1	1	-	-
魚介類		8	215	8	215	-	-
冷凍食品		4	302	2	4	2	298
魚介類加工品		40	89	40	89	-	-
肉・卵類及びその加工品		33	577	33	577	-	-
アイスクリーム類・氷菓		6	52	6	52	-	-
穀類及びその加工品		22	305	20	37	2	268
野菜・果物・豆類・その加工品		111	14,110	23	69	88	14,041
菓子類		53	705	53	705	-	-
清涼飲料水		2	34	2	34	-	-
酒精飲料		9	63	9	63	-	-
缶詰・瓶詰食品		2	6	2	6	-	-
その他の食品		11	21	11	21	-	-
計		328	16,542	236	1,935	92	14,607

※ 総数の検体数は、野菜・果物・豆類・その加工品138件のうち4検体（全て輸入品）を共用として計上した延べ数である。

表 5 残留農薬検査実施内訳（収去検査）

2024 年度

分類		国産品					輸入品							総計	
		野菜	果実	穀類	冷凍食品	小計	豆類	野菜	果実	穀類	冷凍食品	惣菜半製品	茶		小計
検体数 項目数		53	13	2	-	68	2	6	14	-	2	-	-	24	92
	有機塩素系	2,071	546	72	-	2,689	72	234	592	-	78	-	-	976	3,665
有機リン系		2,390	676	74	-	3,140	74	270	736	-	90	-	-	1,170	4,310
有機窒素系		2,600	728	96	-	3,424	96	294	788	-	98	-	-	1,276	4,700
ヒスロイト系		533	143	16	-	692	16	60	158	-	20	-	-	254	946
尿素系		30	-	-	-	30	-	-	40	-	-	-	-	40	70
N-メチルカーバメイト系		21	-	-	-	21	-	-	24	-	-	-	-	24	45
単成分	2,4-D	-	-	-	-	0	-	-	1	-	-	-	-	1	1
	アセフェート	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	0	2
	臭素	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	メタリトス	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	0	2
その他		441	91	10	-	542	10	36	266	-	12	-	-	324	866
計		8,090	2,184	268	-	10,542	268	894	2,605	0	298	0	0	4,065	14,607

表 6 家庭用品検査状況

2024 年度

		ホルムアルデヒド	水酸化ナトリウム・水酸化カリウム	メタノール	特定芳香族アミン	容器試験 漏水	容器試験 落下	容器試験 耐酸(又は耐アルカリ)	容器試験 圧縮変形	総 数
試験検査総数(99検体)		92	3	0	96	3	3	3	3	203
繊維製品	総 数(109)	90	0	0	96	0	0	0	0	186
	おしめカバー(1)	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	よだれ掛け(6)	6	-	-	-	-	-	-	-	6
	下 着(26)	24	-	-	48	-	-	-	-	72
	中 衣(10)	10	-	-	-	-	-	-	-	10
	外 衣(10)	10	-	-	-	-	-	-	-	10
	手 袋(3)	3	-	-	-	-	-	-	-	3
	くつ下(11)	11	-	-	-	-	-	-	-	11
	たび (0)	0	-	-	-	-	-	-	-	0
	帽 子(6)	6	-	-	-	-	-	-	-	6
	寝 衣(13)	13	-	-	-	-	-	-	-	13
	寝 具(6)	6	-	-	-	-	-	-	-	6
	タオル(2)	-	-	-	48	-	-	-	-	48
家庭用化学製品	総 数(5)	2	3	0	0	3	3	3	3	17
	かつら等接着剤(2)	2	-	-	-	-	-	-	-	2
	家庭用エアゾル製品(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	住宅用洗剤(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	家庭用洗剤(3)	-	3	-	-	3	3	3	3	15
他	総 数(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭用防腐木材(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	0

※ 各検査総数の () 内検体数は、延べ数で計上

5 大気環境係

本市の大気汚染状況を把握するため、大気汚染防止法等に基づき環境局が実施するモニタリング調査と連携して、有害大気汚染物質検査、微小粒子状物質（PM2.5）の成分分析を行っている。

また、地球環境問題への取組として、酸性降下物検査を継続して実施している。これらの試験検査に加え、大気環境全般に関する調査研究を実施している。

なお、放射性物質検査を行っていたが 2024 年 10 月から休止している。

【業務内容】

(1) 試験検査

2024 年度の試験検査の実施検体数は 409、延べ検査実施数は 3,456 であった。内訳を表 1、2 に示す。

ア 有害大気汚染物質検査

低濃度でも継続的に摂取した場合に健康被害の恐れがある有害大気汚染物質であるベンゼン及びトリクロロエチレン等の揮発性有機化合物 11 物質、アルデヒド類 2 物質、水銀及びニッケル等の重金属類 6 物質、多環芳香族炭化水素類であるベンゾ[a]ピレン、酸化エチレン、六価クロムの計 22 物質について、市内 4 地点（篠路局、南保健センター、北 1 条局、東 18 丁目局）で毎月 1 回採取した 288 検体の検査を実施した。

イ 微小粒子状物質（PM2.5）成分分析

呼吸により肺胞まで到達し、健康被害の恐れがある微小粒子状物質（PM2.5）について、市内 1 地点（北 1 条局）で春・夏・秋・冬の年 4 回（各 2 週間）採取した 112 検体を対象に、イオン成分、炭素成分、レボグルコサン（バイオマス燃焼の指標物質）及び無機元素成分の分析を実施した。

ウ 酸性降下物検査

ウェットオンリー方式により、市内 1 地点（衛生研究所屋上）で 6～7 月、10 月、1～2 月に採取した 3 検体について、pH 等 10 項目の検査を実施した。

エ 放射性物質検査

大気浮遊じん及び降下物（降水（雪））中の放射性核種のバックグラウンド値を把握するため、市内 3 地点（水道局本局、南区民センター、手稲土木センター）で 7 月に採取した 6 検体について、ヨウ素 131、セシウム 134 及びセシウム 137 の検査を実施した。

表 1 試験検査実施件数

2024 年度

検査名	検 体 数	検 査 数
有害大気汚染物質検査	288	1,056
微小粒子状物質（PM2.5）成分分析	112	2,352
酸性降下物検査	3	30
放射性物質検査	6	18
総 計	409	3,456

表 2 試験検査実施件数一覧表

2024 年度

検査 名	対象物質	検体 数	項目 数	検査 数	検査 名	対象物質	検体 数	項目 数	検査 数
有害大気汚染物質検査	ホルムアルデヒド	48	2	96	微小粒子状物質成分分析	イオン成分 (8 物質)	56	12	672
	アセトアルデヒド					炭素成分 (3 項目)			
	塩化メチル	レボグルコサン							
	クロロホルム	無機元素成分 (30 物質)	56	30		1,680			
	トリクロロエチレン	(小 計)	112			2,352			
	テトラクロロエチレン	酸性降下物検査	pH	3	10	30			
	ベンゼン		導電率						
	ジクロロメタン		陽イオン (5 物質)						
	1,3-ブタジエン		陰イオン (3 物質)						
	アクリロニトリル		(小 計)	3		30			
	塩ビモノマー	放射性物質検査	大気浮遊じん	3	3	9			
	1,2-ジクロロエタン		降下物(降水(雪))	3	3	9			
	トルエン		(小 計)	6		18			
	ニッケル	48	6	288		総 計	409		3,456
	ヒ素								
	クロム								
	マンガン								
	ベリリウム								
	ベンゾ[a]ピレン								
	水銀	48	1	48					
	酸化エチレン	48	1	48					
	六価クロム	48	1	48					
	(小 計)	288		1,056					

※放射性物質検査については 2024 年 10 月より休止中である。

(2) 調査研究

環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）など、以下の研究を実施した。

ア 令和 6 年度化学物質環境実態調査（エコ調査）

(ア) 詳細環境調査：大気中のアクリル酸について試料の採取及び分析を実施

(イ) モニタリング調査：POPs 関連物質のモニタリング調査のうち試料採取を実施

イ 災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発（国立環境研究所と地方環境研究機関とによる共同研究）

ウ 酸性降下物に関する調査研究

エ アサガオ新規品種を用いた環境ストレス影響評価およびモニタリング（国立環境研究所と地方環境研究機関とによる共同研究）

オ 光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み（国立環境研究所と地方環境研究機関とによる共同研究）

6 水質環境係

「水質汚濁防止法」や「札幌市生活環境の確保に関する条例」等に基づき環境局が行う監視指導業務に係る各種水質検査、他関係部局の調査業務等に伴う検査を行っている。

また、分析技術の信頼性確認のため、環境省が主催する環境測定分析統一精度管理調査に継続して参加している。

【業務内容】

(1) 試験検査

試験検査は、水質について実施した。水質検査は186検体1,709項目を実施した（表1）。

なお、水質検査は、河川水、鉱山排水、工場・事業場排水及び地下水等について行った（表2）。

ア 河川水検査

事業場の排水等が河川に与える影響を把握する各種調査に係る水質検査58検体、376項目実施した。

イ 鉱山排水検査

本市と「公害防止協定」を締結している旧鉱山などの排水水について、重金属類を中心に水質検査を23検体252項目実施した。

ウ 工場・事業場排水検査

「水質汚濁防止法」及び「開発行為等における污水放流の指導要綱」に基づく事業場の排水水等について、水質検査を102検体1,068項目実施した。

エ 地下水検査

環境基準超過や工場等からの有害物質の漏洩による地下水汚染に係る水質検査を2検体10項目実施した。

オ その他

採石場の調査を1検体、3項目実施した。

表1 試験検査件数

2024年度

種 別	総 計	水質検査	土壌検査	底質検査	放射性物質検査
検体数	186	186	0	0	0
項目数	1,709	1,709	0	0	0

表 2 試験検査内訳

2024 年度

		総 計	河川水	鉱山排水	工場・事業場排水	地下 水	その他
検体数		186	58	23	102	2	1
項目数		1,709	376	252	1,068	10	3
検査 項目	水素イオン濃度 (pH)	162	39	23	97	2	1
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	84	0	0	84	0	0
	浮遊物質	84	0	0	84	0	0
	大腸菌群数	106	19	0	87	0	0
	ノルマルヘキサン抽出物質	61	0	0	61	0	0
	カドミウム	79	39	23	17	0	0
	シアン	28	6	9	13	0	0
	鉛	80	39	23	18	0	0
	六価クロム	0	0	0	0	0	0
	砒素	91	39	23	26	2	1
	セレン	13	0	0	13	0	0
	総水銀	13	0	0	13	0	0
	銅	57	19	23	15	0	0
	亜鉛	78	39	23	16	0	0
	溶解性鉄	76	39	23	14	0	0
	溶解性マンガン	83	39	23	21	0	0
	総マンガン	20	20	0	0	0	0
	総クロム	15	0	0	15	0	0
	ふっ素	19	0	0	19	0	0
	トリクロロエチレン	15	0	0	15	0	0
	テトラクロロエチレン	15	0	0	15	0	0
	1,1,1-トリクロロエタン	15	0	0	15	0	0
	四塩化炭素	15	0	0	15	0	0
	シス-1,2-ジクロロエチレン	15	0	0	15	0	0
	揮発性有機化合物(上記以外)	127	0	0	127	0	0
	電気伝導率	2	0	0	0	2	0
	農薬 (除草剤)	26	0	0	26	0	0
	〃 (殺虫剤)	13	0	0	13	0	0
	〃 (殺菌剤)	19	0	0	19	0	0
	アンモニア性窒素	15	0	0	15	0	0
	硝酸性窒素	15	0	0	15	0	0
	亜硝酸性窒素	15	0	0	15	0	0
	ほう素	32	0	0	32	0	0
	フェノール類	13	0	0	13	0	0
	臭気強度	12	0	12	0	0	0
	色度	14	0	12	2	0	0
	その他	182	39	35	103	4	1

(2) 調査研究

環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）など、以下の研究を行った。

ア 令和6年度化学物質環境実態調査（エコ調査）

初期環境調査：4,4'-ジアミノジフェニルエーテル（豊平川下流（中沼）、新川下流（第一新川橋）、豊平川中流（東橋）、伏籠川下流（茨戸橋）での試料採取及び測定）、n-ブチル-2,3-エポキシプロピルエーテル（豊平川下流（中沼）、新川下流（第一新川橋）での試料採取のみ）

詳細環境調査：アクリル酸及びそのエステル類、アルキル硫酸及びその塩類（豊平川下流（中沼）、新川下流（第一新川橋）での試料採取のみ）

アルコール（第一新川橋での試料採取及び測定）

イ 第Ⅱ型共同研究「公共用水域における有機 - 無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」

ウ 令和6年度水質環境基準健康項目等検討業務に係る農薬類モデル調査

エ 札幌市の河川における PFOS/PFOA の調査について

7 主な会議、研究会、学会、研修への参加

月	会 議 等 の 名 称	開催地	参 加 者
5	令和6年度 病原体等の包装・運搬講習会	東京都	高橋
	令和6年度水質環境基準健康項目等検討業務に係る農薬類モデル調査説明会	Web 開催	菊地（克）、白倉
6	令和6年度特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）	所沢市	菅原
	令和6年度全国環境研協議会北海道・東北支部総会	新潟市	八田
	令和6年度環境測定分析統一精度管理調査結果説明会	Web 開催	菊地（克）、菅原、白倉、野崎、大宮
7	衛生微生物技術協議会第44回研究会	東京都	大西、佐藤（耶）
	「食品添加物一日摂取量調査等」班会議	Web 開催	村越、小野澤
8	全環研支部統一精度管理ブロック会議	Web 開催	菊地（克）、菅原、白倉、野崎、大宮
9	令和6年度 薬剤耐性菌の検査に関する研修（基本コース）	Web 開催 武蔵村山市	東山、佐藤（耶）
	令和6年度 検査機関に対する検査能力・精度管理等の向上を目的とした講習会（検査能力向上講習会）	Web 開催	高橋
	令和6年度指定都市衛生研究所長会議	Web 開催 京都市	東田
	第65回大気環境学会年会	横浜市	高野
10	令和6年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部微生物研究部会総会・研究会	福島市	大西
	令和6年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部公衆衛生情報研究部会総会・研修会	秋田市	扇谷
	地環研Ⅱ型-A 共同研究「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」全体会合（1回目）	つくば市	白倉
	Ⅱ型共同研究「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」全体会合	つくば市	武田
	環境研究総合推進費【1-MF-2301(3)】地環研机上演習	つくば市	武田、白倉
	令和6年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部衛生化学研究部会総会	山形市	小野澤
	令和6年度 薬剤耐性菌の検査に関する研修（アップデートコース）	Web 開催	石黒

月	会 議 等 の 名 称	開催地	参 加 者
11	地方衛生研究所等職員セミナー（初任者向け）	東京都	高橋
	令和6年度 動物由来感染症リファレンスセンター研修会（SFTS検査研修）	武蔵村山市	尾口
	Ⅱ型共同研究「アサガオ新規品種を用いた環境ストレス影響評価およびモニタリング」R6全体会合	Web開催	太田
	アジレント・テクノロジー㈱主催ガスクロマトグラフ質量分析計（GC/MS）講習会	八王子市	高野
12	「腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症等の病原体に関する解析手法及び共有化システム構築のための研究」研修会	福島市	石黒
	令和6年度水質分析研修 A コース（GC/MS 農薬類）	Web 開催 所沢市	白倉
	国立環境研究所Ⅱ型実施研究第二回合同会議	福井市	白倉
	地環研Ⅱ型-A 共同研究「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」全体会合（2回目）	福井市	白倉
1	令和6年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	東京都 Web 開催	野崎、濱谷 太田、武田、高野
	感染症サーベイランスオフィサープログラムキックオフミーティング	Web 開催	菊地（正）、大西、 尾口、高橋
	令和6年度「残留農薬等研修会」	東京都	佐藤（寛）
2	第38回公衆衛生情報研究協議会総会及び研究会	Web 開催	扇谷
	令和6年度地方感染症情報センター担当者会議	Web 開催	扇谷
	第5回日本食品衛生学会 北海道・東北ブロックセミナー	仙台市	村越
	令和6年度地方公共団体環境試験研究機関等所長会議	Web 開催	八田
	令和6年度全国環境研協議会北海道・東北支部 酸性雨広域大気汚染調査研究専門部会	Web 開催	武田
	第8回新生児スクリーニング全国ネットワーク会議	Web 開催 東京都	野町
3	Ⅱ型共同研究「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」全体会合	Web 開催	高野、太田
	令和6年度水質環境基準項目等検討業務に係る農薬類モデル調査専門家ヒアリング	Web 開催	菊地（克）、白倉

8 職員研修

期 日	研 修 名		人 員
4. 22	衛生研究所管理マニュアル研修	衛生研究所 職員	5

計 5名

9 外部団体等研修受入

期 日	研 修 名 称	研 修 員 所 属	人 員
10. 16	社会医学実習【トイレ・上下水道から考える水環境と健康】	北海道大学医学部生	4
11. 8	社会医学実習【感染症・食品保健コース】	北海道大学医学部生	4

計 8名

10 精度管理業務

(1) 微生物係

業務名	実施主体	分析対象試料	分析対象項目
2024 年度食品衛生外部 精度管理調査	(一財) 食品薬品安全 センター	模 擬 食 材 (ハンバー グ) (2 検体) 模 擬 食 材 (ゼラチン基 材) (1 検体) 模 擬 食 材 (ハンバー グ) (2 検体) 模 擬 食 材 (液卵) (2 検 体)	E. coli 一般細菌数 腸内細菌科菌群 サルモネラ属菌
令和 6 年度外部精度管 理事業 課題 1 腸管出血性大腸 菌の遺伝子検査	国立感染症研究所 厚生労働省	パネル検体 (4 検体)	大腸菌 MLVA 解析
令和 6 年度外部精度管 理事業 課題 2 麻しん・風しん ウイルスの遺伝子解析	国立感染症研究所 厚生労働省	パネル検体 (2 検体)	麻しん・風しんウイル ス
令和 6 年度外部精度管 理事業 課題 3 コレラ菌の同定 検査	国立感染症研究所 厚生労働省	パネル検体 (3 検体)	コレラ菌
令和 6 年度 北海道・東 北・新潟ブロック腸管 出血性大腸菌精度管理	令和 6 年度厚生労働科 学研究 (新興・再興感 染症及び予防接種政策 推進研究事業) 「食品 由来感染症の病原体解 析の手法及び病原体情 報の共有に関する研 究」班	DNA 抽出液 (5 検体)	大腸菌 MLVA 解析

(2) 母子スクリーニング検査係

業務名	実施主体	分析対象試料	分析対象項目
新生児マススクリーニング外部精度管理	NPO 法人タンデムマススクリーニング普及協会	ろ紙血	アミノ酸、アシルカルニチン、ガラクトース、甲状腺刺激ホルモン、17-ヒドロキシprogesterone
Newborn Screening Quality Assurance Program	アメリカ疾病予防管理センター (CDC)	ろ紙血	アミノ酸、アシルカルニチン、ガラクトース、ビオチニダーゼ酵素活性、甲状腺刺激ホルモン、17-ヒドロキシprogesterone、他ステロイド4種

(3) 食品化学係

業務名	実施主体	分析対象試料	分析対象項目
2024 年度食品衛生外部精度管理調査	(一財) 食品薬品安全センター	果実ペースト 果実ペースト 豚肉 (もも) ペースト ほうれんそうペースト	ソルビン酸 (定量) 着色料 (酸性タール色素中の許可色素) (定性) スルファジミジン (定量) 残留農薬 (6 種農薬中 3 種農薬の定性と定量)
令和6年度「地域健康保健総合推進事業」北海道・東北・新潟ブロック「精度管理事業」	地方衛生研究所全国協議会 北海道・東北・新潟支部「地域健康総合推進事業」精度管理事業担当衛生研究所(札幌市衛生研究所)	モロヘイヤペースト	アトロピン、スコポラミン (定量)

(4) 大気環境係

業務名	実施主体	分析対象試料	分析対象項目
令和6年度 降水分析機関間比較調査 (酸性雨)	(一財) 日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター	模擬降水試料 (2 検体)	pH、電気伝導率、塩化物イオン等 合計 10 項目
環境測定分析統一精度管理調査	環境省	模擬大気試料	揮発性有機化合物 (クロロエチレン等 8 項目)

(5) 水質環境係

業務名	実施主体	分析対象試料	分析対象項目
環境測定分析統一精度管理調査	環境省	模擬水質試料	全磷、ほう素、カドミウム、鉛、鉄、シマジン、チオベンカルブ、揮発性有機化合物 (クロロエチレン等 5 項目)

11 広報誌「ぱぶりっくへるす」

札幌市衛生研究所の見学者に対して業務を紹介する内容のパンフレットを作成し、「ぱぶりっくへるす」第42号として発行した。

「第42号ぱぶりっくへるす」より一部抜粋

Guide Book for the Sapporo City Institute of Public Health 札幌市衛生研究所



衛生研究所の概要

札幌市衛生研究所は1962年4月(当初 衛生試験所)、市民の健康の保持と環境保全のための試験検査、試験研究、公衆衛生情報の収集、解析、提供を行う機関として設立されました。衛生行政の科学的、技術的中核として、最新技術による科学的なデータの提供を行い、衛生行政の推進に大きく寄与してきました。

2019年12月に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が確認されてから世界中に感染が拡大し、3年にわたって外出自粛等の行動制限が強いられ、経済活動にも大きな影響をもたらしました。

このような中、当研究所は、ウイルス感染症の検査・研究機関として、変異株のスクリーニング、ゲノム解析を行い、感染拡大の防止に重要な役割を担ってきました。

これからも、当研究所は、先端技術を導入し、関連研究機関との連携を強化して、時代の要請に応えるべく、業務の質の向上に努め、市民の健康と快適な生活を守る努力を続けていきます。

Institute Profile

The Sapporo City Institute of Public Health was established in April 1962 (then called the Hygiene Laboratory) as a test and research center that could also collect, analyze, and provide health information, and thus preserve both public health and the environment. As a scientific and technical cornerstone of the public health administration, the institute has provided scientific data gained through cutting-edge technologies and has contributed greatly to public health administrative policy.

Since Coronavirus disease 2019(COVID-19) was confirmed in December 2019, the infection has spread all over the world, forcing people to refrain from going out and restricting their activities for three years, which has also had a major impact on economic activity.

In this situation, the Sapporo City Institute of Public Health, as a testing and research institution for viral infectious diseases, has performed screening for mutant strains and genome analysis, and has played an important role in preventing the spread of infection.

By incorporating leading-edge technologies and strengthening its cooperation with other research institutes, the institute is meeting the needs of the time and is working hard to further improve the quality of its services and to thereby protect public health and ensure a pleasant way of life.

